会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（元町第二自治会）
2　日時	平成30年7月7日（土）10：30～11：30
3　場所	茅ヶ崎コミュニティセンター
4　出席者	（資源循環課）森岡担当主査、下舞主任 （環境事業センター）小川所長補佐、安齋担当主査、井上技能労務統括主査、角嵜技能労務主任 （元町第二自治会）参加人数：8人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●狭隘道路上のごみはどのように収集するのか、また、収集車のサイズを「大・中・小」と新しく購入する予定なのか。 →他市の状況を調査している状況であるが、藤沢市においてはパッカー車が進入できない道路は、軽自動車で収集を行っている。軽自動車も進入できない道路は、徒歩で収集に伺っている状況である。環境事業センターで市内の道路状況を調査中であり、パッカー車や軽自動車が何台必要か検討中である。 ●ごみの有料化や戸別収集も良いがマナーの悪い人に対策を行うべきである。この地域は不法投棄が多いと感じる。また、広報紙の配布方法を改善して欲しい。ＪＲや銀行などに配架されている広報紙の多くが廃棄されていると感じている。 →市としても皆様にお願いする前に啓発方法の検討や強化を実施する予定である。 ●有料化のごみ袋のデータが1人あたり、Lあたりで表示されている。1世帯あたりの金額のデータを示して欲しい。 →現在市内で説明会を行っている途中なので資料を変えることは難しい状況である。今後は排出状況に近い資料作成を検討する。 ●藤沢市は戸別収集とステーション方式の両方でごみの収集を行っている。茅ヶ崎市はごみの種別中でどれをステーション方式にする予定か。 →藤沢市は段階的にステーション方式から戸別収集に移行している。現在、ステーション方式で収集しているのは古紙のみである。現段階でごみの種別中でどれをステーション方式で収集をするか、また、戸別収集を実施するかは未定である。 ●環境指導員や自治会長は、ごみに対して意識が高く熱心である。ごみの意見交換会の回覧板を280世帯にまわしたが、今日は8人しか集まっていない。意識の低い方に啓発する必要があるのではないか。 →ごみに対する意識が低い方への効果的な啓発方法を検討する。

●茅ヶ崎市の一人当たりのごみ処理経費が県や国と比べて高い理由はなぜなのか。
→全国の市町村と比較して、茅ヶ崎市のごみ処理経費は、決して高い状況ではない。燃やせるごみは減少傾向であるが資源化率が想定よりも悪い状況である。

●資源化とはどういうことを指しているのか。
→再生利用をすることを資源化という。例えばペットボトルが服にリサイクルされている事は資源化である。

●藤沢市と大和市の資源化率はどのくらいなのか。
→神奈川県のデータベースに記載があるので確認する。

●ごみ集積場所に事業系ごみがたくさん出ている状況である。事業者への指導が必要ではないのか。
→事業系ごみが排出されていた場合、環境事業センター業務担当が現場確認等で対応している。環境事業センターで特定できるようであれば直接、事業者に処理してもらうように指導することが可能である。しかし、茅ヶ崎市では収集に支障をきたさないごみであれば事業系一般廃棄物として処理できるようになっている。ごみの多量排出事業者にはごみの減量計画書を提出してもらい立入調査を実施している。今後、事業者を対象としてこのような意見交換会を開催する予定である。

●今回の件について商工会には話を通しているのか。
→担当課と調整中である。飲食店組合等に声掛けを行う予定である。

●小学生に啓発を行い、ごみに対する意識向上を目指すべきである。
→すでに小学 4 年生を対象に環境学習を実施している。また、施設見学も実施しており、今後も続けていく予定である。

●現時点でカラス被害が発生しているが、戸別収集になったらどのようにしてカラス対策を行う予定なのか。
→戸別収集を実施するか未定であるが、戸別収集を実施した場合には、各家庭でカラス対策を行なっていただく予定である。藤沢市の事例になるが、各世帯で蓋付きのポリバケツで排出している世帯が多い状況である。

●カラスの駆除はできないのか
→鳥獣保護法があるのでカラスの駆除はできない。雛であれば環境保全課で対応できる。

以上